

大川小「伝承の会」参加も裏山話から職員“避難”

[2019年12月16日7時22分]

Tweet

いいね!

シェア



大川小で語り部活動をする鈴木典行さん（共同）

東日本大震災の津波で児童74人が犠牲となった宮城県石巻市立大川小で15日、遺族らでつくる「大川伝承の会」の語り部活動が行われ、県と市の教育委員会の職員計9人が参加した。大川小訴訟を巡り、事前防災の不備など行政の法的責任を認める判決が最高裁で確定したことを受け、市は遺族の伝承活動も参考に防災の取り組みを進める。

遺族は震災前後の写真を見せ、被災状況などを説明。職員は他の参加者に交じって耳を傾けた。終了後の取材に市教委の千葉正人課長補佐は「遺族の気持ちが伝わった。学校防災に生かしていきたい」と述べた。しかし打ち合わせなどを理由に、津波襲来前に児童が逃げようと教職員に訴えたとされる校舎裏山に登っての説明は聞かなかった。

6年の次女鈴木真衣さん（当時12）を失った典行さん（54）は職員の参加を「1歩進んだのかなという感じ」としつつ「裏山での話を一番聞いてほしかった」と話した。